

第 11 回 市民参加懇談会コアメンバー会議
- 市民参加による政策検討会議 -
議事録

1. 日 時：平成 15 年 6 月 9 日（月） 14：30～16：30
2. 場 所：虎の門三井ビル 2 階原子力安全委員会 第 1、2 会議室
3. 出席者：木元座長（原子力委員）、森嶋座長代理（原子力委員）、碧海委員、井上委員、小川委員、中村委員、松田委員、吉岡委員
（原子力委員会）竹内委員
（内 閣 府）大熊政策統括官、榊原参事官、犬塚参事官補佐
4. 議 題：（１）「市民参加懇談会 in 敦賀」の開催計画について
（２）次々回の市民参加懇談会の開催について
（３）その他
5. 配布資料
資料市懇第 11-1 号 「市民参加懇談会 in 敦賀」開催計画
資料市懇第 11-2 号 次々回の市民参加懇談会の開催候補地について
資料市懇第 11-3 号 第 9 回市民参加懇談会コアメンバー会議議事録
資料市懇第 11-4 号 第 10 回市民参加懇談会コアメンバー会議議事録

6. 審議事項

- （１）「市民参加懇談会 in 敦賀」の開催計画について
- 事務局より、資料市懇第 11-1 号について説明。
- （木元座長）
- ・資料 11-1 号のプログラム、メンバーその他については、これまでにご議論いただいたので、既にご了解いただいていると思うが、何か「市民参加懇談会 in 敦賀」のフォーマットについて質問はありになるか。なければ、この形で開催させていただきたい。
 - ・タイトルは「原子力と地域社会 - 原子力が地域にもたらすプラスとマイナスを考える - 」である。開催地の検討当初は、「もんじゅ」の判決が出ていたので、これをテーマにするのかというご議論から始まったのではないかと思う。しかし、本件に関してはまだ確認されていない部分もあり、背後に踏まえるに留めたい。パネリスト、コアメンバー、それぞれがお持ちになっているお気持ちもおありになると思う。そういうお気持ちも踏まえたい。福井県ひいては敦賀というのは、原子力とは大変深い関係を持っている、長い歴史を持っている地域であるということで、地域との共生を考えると、タイトルをつけさせていただいた。パネリストの平山氏は、地域に密着した敦賀市女性エネの会の会長というお立場でお話しただけだと思うが、住田氏にどういったお話をいただくかという問題について、第 1 部の司会をお願いする中村委員、何かご意見は。
- （中村委員）
- ・そこが今回のテーマにおいては一番難しいところで、消費者・市民代表という方、あるいは橋詰氏のような記者出身で現在論説委員長をやっている方からは、こ

のテーマでそれぞれのポジションでお話が伺えると思う。一方、住田氏は技術の専門家なので、ほかの原子力のテーマとか、核燃料サイクルのテーマの場合には、技術的な背景をお話しいただいたり、東電問題を扱ったときのように技術者の問題等を扱うときには極めて適切な先生で、伺いたいことがたくさんあったのでよかったが、今回のテーマの場合、どちらかという理想的には学識経験者としては技術系の学識経験者ではなく、人文科学系の学識経験者というか、社会問題、法制度、地方分権のあり方、そういった人文系の視野からお話いただける方がふさわしかったのではないかなと思う。したがって今回の場合は、住田氏に事前にお話をし、こちらの趣旨をお伝えして、どういうアプローチでお話をしてくださるかということをお打ち合わせさせていただいた方が良いかもしれない。これまでは全く当日アドリブで、お互いの意見のやりとりの中から進行していくという形をとってきたが、今回の場合は若干必要かなと思う。原子力安全についてもご専門の方だから、今私が考えているような人文科学的なアプローチでお話しいただくのが非常に大事な点になるということさえご理解いただければ、その方向でお話しくださると思う。

（木元座長）

- ・住田氏はオールマイティーな方と承知している。住田先生に私個人の意見としてお願いしたいのは、海外事情について、例えばセラフィールドでは、住民の方たちが原子力施設との共生についてどのような感触を持っているとか、例えば不信感、不安感、安全性について問題があったときにどのような対処の仕方をしているとか、そういう海外の情報を知っていらっしゃると思う。まだ直接は伺っていないので分からないが、技術者ではあるが、地域に根づいた施設であれば、そのことも把握していらっしゃると思うので、そのあたりからお話しいただければいいと思う。

（中村委員）

- ・そう思う。そういったこちらの意図だけは、特に第1部のスタートはお話をお1人ずつ伺っていくと思うので、そういうスタンスでお入りいただけるかということだけ伝えておく必要があると思う。

（吉岡委員）

- ・このテーマであれば社会学者、経済学者の方が良かったかもしれない。「地域にもたらすプラスとマイナス」というと、プラスはお金で、マイナスは危険だと思う。他には長期的に廃棄物の問題とかがある。あるいは一旦引き受けたら政府の言うことを聞かなければいろいろ脅しをかけられるとか、そういうことも福島では私はいろいろ伺っている。それらマイナス面の代表として危険というのがあると思う。したがって、内容としては防災ということを中心にお話しいただければ良いのではないかなと思う。防災について、今までどうやってきたか、課題はどうかということは、住田氏の専門にかなり近いところだと思うので、それを中心に話していただき、一巡したあとは自由闊達に議論していただくということがいいと思う。

（小川委員）

- ・平山氏、橋詰氏は福井の方なのだから、住田氏は客観的にいろいろなところの事例として地域との共生を一步離れたところからお話しいただくということで、よろしいと思う。吉岡委員が言われたように、防災は確かに、住田氏は良くご存知でいらっしゃると思うので、JCOの事故など過去に携わった例も含めてお話しいただければ、よ

ろしいと思う。

（碧海委員）

- ・ 今、吉岡委員からお金と危険というお話があったが、私は、この地域の人たちが自分たちの暮らしの質はどういうものかということのをどのくらい考えるチャンスがおりになったか等を伺ってみたいと思う。だから、お金と危険というのは余りにも直接的な話なので、そうでないものがあるに違いないと思う。平山氏は何といってもエネルギーとか原子力に詳しい、どちらかといえば応援してこられた方ではないかという気もするが、そうでない方たちの声が今までの市民参加懇談会よりも出やすいテーマではないかと思う。今回は、そういう方たちがどのくらい参加されるか、あるいは交通整理をどのようにするかということが問題になるのではないかと思う。

（木元座長）

- ・ 仮に 1 時間半の中で中村委員に進行していただくとすると、その中で、全体で討議した方がよい課題が出るかもしれない。それを第 2 部で引き受けるとか、中村委員も第 2 部のコアメンバーの席に連なっていて、またそこで新たな展開という方向も可能ということになる。

（碧海委員）

- ・ 住田氏は、ご専門から考えると少し違うのかもしれないが、何といっても昨年 11 月の東京での市民懇を思い出すと、お人柄からいっても、お話の仕方、話術からいっても、私はよろしいのではないかと思う。

（中村委員）

- ・ 住田氏については、私も尊敬申し上げている方であり、おっしゃる点では何の心配も持っていないが、今日、あえてこういう発言をしたのは、とかく我々は人選のときに、学識経験者というのは技術偏重になりかねないと思うからである。その自戒を込めた警告である。住田氏は、期待する分野のお話もしていただけるので今回はよろしいが、吉岡委員がいつも言われていることだが、原子力の問題あるいはエネルギー政策の問題を経済学者、政治学者、社会学者といった方面の学識経験者からのアプローチでも話し合えるということが今後必要になってくるという意味で、たまたま地域共生というテーマということもあって申し上げた。住田氏をお招きすることに異論はなく、皆さんが言われた内容を踏まえて司会進行したいと思う。

（木元座長）

- ・ 市民参加懇談会のパネリスト、コアメンバーの方々からは、専門家としてご専門の分野だけのお話をしていただくことも重要だが、それだけではなく、「で、どうなの」と聞きたくなる部分がある。すなわち、「専門家としてだけでなく、一人の生活する者として、このことをどう考えるのか」という視点が重要であり、特に原子力の世界では、それが広がりを持っていくだろうと思う。それは重要視していきたいと思うし、共通の話題として、共通項の課題をお互いが討議し合うという方向がよろしいのではないかと考えているので、その点をよろしく願いたい。
- ・ 第 2 部の方は、会場参加者からご意見を聴くといういつものやり方で、井上委員と松田委員に司会をお願いする。座り方はコアメンバーとパネリストが一行にずらっと並ぶことを考えたが、以前に客席におりた方がよいのではないかというご意見もあったが、いかがか。ご参加いただくコアメンバーが 5 人、井上委員と松田委員を入れて 7

人である。我々コアメンバーの座席は、便宜上、「壇上」と申し上げるが、壇の上ではなく、カーペットだけである。

(中村委員)

・フラットな会場に移動式でいすが運び込まれる形か。

(木元座長)

・その通りである。後方の座席は段々高くなり、一番上が高さ60センチになる。

(中村委員)

・会場参加者の皆様が見おろして我々の方を見る感じか。

(木元座長)

・見下ろすほどではないと思う。顔が見えるかなというぐらいまで上がる。

(中村委員)

・この間、井上委員と話をしたが、コアメンバーがずらっと並ぶというのはあまり好ましくないのではないか。

(碧海委員)

・これは余り良くないと思う。前に並ぶのには、私は反対である。

(木元座長)

・刈羽での開催のときのように、ぐるっと囲むのはいかがか。お互いに顔が見える。

(井上委員)

・司会進行というか、交通整理的な立場で言うと、最初にどの話から入って、2時間も過ぎた後の最後の出口あたりまで、うまく全体の話が大きなテーマに沿っていけば良いが、そのうちに何をしゃべっているのか分からなくなったり、どうやって整理したら良いか分からなくなったりすると思うので、松田委員にもよろしくお願いしたいが、コアメンバーの皆様も壇上にいてくださるので、いつでも助っ人していただけたり、「今、話が少しずれてきているから、こっちへ戻そうよ」と、皆さんで進行していけるような形を取りやすいような舞台設定があると良いという話はしていた。分かれて座るのもおかしいし、司会者だけがフロアを向いているのもおかしいし、その他のコアメンバーの皆さんがフロア側にずらっと並ぶというのもおかしいしということで、椅子の配置そのものが動かせるのかどうか……。

(木元座長)

・動かせるということなので、フロア側に広がる「八」の字にしてはいかがか。

(井上委員)

・せめてそういう形が妥当だろう。

(木元座長)

・フロア側の前のほうの席も、左右の列に少し角度をつけて、壇上の「八」の字を受けするように、壇上に向かって広がる「八」の字にするとか。

(小川委員)

・フロア側の前のほうの席には段がないので、かまぼこ形みたいな形にしたらいかがか。

(木元座長)

・半月形ということか。

(小川委員)

・半月形でよろしいと思う。

(碧海委員)

- ・過去の市民懇で気になるのは、第 2 部でコアメンバーが一行で横に並んでいること。あれはすごくやりにくい。

(中村委員)

- ・アーチというか、半円形にし、真ん中に司会進行の人たちが、机半分幅くらい前へ出るのが良いと思う。舞台で言うと上手側に第 1 部のパネリスト 3 人が半円の弧を描いて、机半分くらい下がる。下手側に我々コアメンバーがやはり弧を描き、真ん中の司会から見ると机半分くらい下がっていて、少しフロア席寄りになる。壇上のパンチカーペットというのは、一応の区切り、境界というようなものだろう。それなら、趣旨からいったら、なくて良いと思う。全く同じ平面上に我々も座っているという感じになる。

(木元座長)

- ・では、パネリスト、コアメンバーの座席は、フロア側と全く同じ平面上で、半月形、半円形に並べかえるということにしたい。

(碧海委員)

- ・我々の後ろに座るようにしている説明役というか、何か質問を受けたときに答える、説明者の方々も余り遠慮がちに後ろの方に引っ込んでいるというのではなくて、この方たちも対等に会話して良いわけだから、もう少し普通で良いのではないか。

(木元座長)

- ・フロア側から見て右側は第 1 部のパネリスト 3 人であるが、最初のパネルディスカッションのときはそれでよいとしても、説明者の席として更に右側に延ばしても良いのではないかと考えている。いずれにしても我々の後ろではない方が良いでしょう。

(吉岡委員)

- ・市民懇の趣旨として、専門委員には、発言者の皆さんの声を聞き届けて応答する義務があると思う。したがって会の最後にしっかりした感想を委員 1 人 1 人に言う必要はあると思うが、その際に、あるいは途中で意見を言うのも含めて、司会から見て委員の顔が全部見えるという状況が必要だと思う。青森のときは非常に痛切にそれを感じた。専門委員の方が何か意思表示をしていたとしても、真横で見えないという状況があったので、全員の顔が見えるような位置に司会を置いたら良いと思う。

(木元座長)

- ・円卓状にすれば、比較的小顔も見え、声も聞こえる。

(中村委員)

- ・半月形に並べば、真ん中に司会がいると、困ったときに右に左にお願いもできるだろう。加えて、どうせなら左右対称になっていた方が良いでしょうから、右側はパネリスト、左側はコアメンバー、という形でなくても良いと思う。

(木元座長)

- ・コアメンバーも分けるということか。

(中村委員)

- ・多分左右に 4 人・4 人になると思う。司会のお 2 人も、第 1 部のパネリストだからとか、コアメンバーだからと言って発言を促したりしなくても、とにかく何か反応のありそうな人はもう右でも左でもどんどん話していいという感じの方が良いと思

う。

(木元座長)

- ・それは良いと思う。そのようにコアメンバーも分けて座っていただくよう考える。
- ・次にお諮りしようと思っていたのは、場合によって説明をいただく関係者の方々についてである。今のこちら側の考えだと、核燃料サイクル開発機構、関西電力、日本原子力発電、文部科学省、資源エネルギー庁、原子力安全・保安院、内閣府の方々をそれぞれ呼び出す案としている。
- ・それぞれがお1人かお2人かになると、かなりの人数にはなる。青森のときも、東京の第2回のときも、それぞれお2人ずつでご参加いただいた。ご発言いただく機会がある方とない方という状況になるかもしれないが、それでも来ていただいた方が良いと思うが、いかがか。今申し上げた組織のお名前で、ほかにというご意見は特にないか。

(小川委員)

- ・敦賀は北陸電力の電気を使っており、火力発電所もあるので、北陸電力はどうか。

(木元座長)

- ・「原子力が地域にもたらすプラスとマイナス」というテーマでもある。

(小川委員)

- ・原子力という括りを考えると、見送っても良いと思う。

(碧海委員)

- ・関西電力の(株)原子力安全システム研究所の方はどなたかおいでにならないのか。

(木元座長)

- ・今のところは考えていない。私どもが今ご提示申し上げているのは、関西電力なら関西電力で責任のあるお立場で、「これは私の部署ではございません」と答えなくて、何でもきちんと、全部網羅してお答えいただく方をお願いしようと思っている。

(吉岡委員)

- ・それが良いだろう。

(井上委員)

- ・オフサイトセンターはいかがか。美浜もあるし、大飯も高浜もあるので、防災の話にご対応頂く方として。

(木元座長)

- ・オフサイトセンターのことをお話いただくということであれば、原子力安全・保安院がカバーできると思う。

(井上委員)

- ・地域の方は、事ここに至って、あの設備ができたことへのかなりの期待なり、自分たちの生活のレベルでの関連性を随分思っておられると思う。だから、フロアから出る意見も、もっと詳しく聞きたい気がする。したがって、地元の責任者のレベルの方がいらっしゃった方が良いと思う。

(中村委員)

- ・原子力安全・保安院の方で、個々のことも全体のことも話せる方が良いと思う。

(井上委員)

- ・地元高浜のオフサイトセンターを一度見学させていただいたことがある。質問が見学

者の中からどんどん出た。でも、少し頼りないというか、答えがすぐ出なかった。設備とシステムはすごいが、地域で毎日のことなので、絶えずここではこのようにといったプラン見えてこないのは残念だった。何も起こらないのが一番良いと言っても、やはり住んでいる者にしたら、例えば何もなしときはこういうプランでシミュレーションが行われているとか、こういうときは別の内容で、かつ何かのプランがあるとか、そういうところに命がしっかり入っていないと、建物を作って終わりかという…。

(木元座長)

- ・井上委員、そのご意見を市民懇の本番で言っていただけないか。それが届く声になる。

(碧海委員)

- ・それは、井上委員ではなくて、地元の方に言ってもらわなくてはいけないのではないかな。

(木元座長)

- ・井上委員に言って頂いても構わないと思う。

(中村委員)

- ・井上委員は、地元の方との交流があるから、それは司会しながら発言されても一向に構わない。

(木元座長)

- ・司会者が自分の意見を言ってはいけないということはないと思う。大事なことは、司会を離れて、言わないといけないと思う。司会者は意見を出してはいけないと誰も決めてはいないので、もう自由闊達に、中村委員にもお願いしておくが、その方が問題がよく見えるし、考察が深まる。だから、「はい、次」「はい、次」で、「はい、やめましょう」などということはない。自由闊達にやっていただきたいと思うので、よろしく願いしたい。

(碧海委員)

- ・私が先ほど言った関西電力の(株)原子力安全システム研究所も調査活動をされているが、なるべく当日はそういう方、あるいはPR館等で活動してきた方、そういった方たちに参加していただいて、発言していただきたいと思っている。

(木元座長)

- ・若狭などでも随分活発にやっていらっしゃるようなので、そういう方もご参加になるかもしれない。広くお声をかけさせていただいて、壇上というか、特定の席には座っていただかないにしても、会場から発言していただける形はとらせていただきたいと思うので、こちら側でこれから努力する。

(小川委員)

- ・市役所の方とか県庁の方はどうなるのか。

(木元座長)

- ・いらっしゃると思う。ただ、特にお招きはしないし、今回も共催という形をとらないので、一般参加の方と同様の参加になると思う。
- ・先ほど吉岡委員からのご発言に、第2部では会場からご発言があって、パネリストと司会がいて、そのときに、もう少しコアメンバーとの交流があって良いというご意見があった。青森で開催した時はコアメンバーに対し、「終わりに一言感想を」になってしまったが、そういうことではなくて、「吉岡委員に聞きたい」とか、「森嶋座長

代理に聞きたい」というお声が出るかもしれないので、今回からは自由にやりたい。あるいはこちらから質問させていただきたいという声が出るかもしれない。

- ・そういう形で進行していただくということで、井上委員と松田委員、よろしいか。この間は言わなかったけれども、ご自分の意見もどんどん、おっしゃっていただく方向としたい。

(小川委員)

- ・説明者の方の人数が多くなるが、二重半円のようにするという感じが。

(碧海委員)

- ・二重でも良いのではないか。余り後ろの方に離れて、いかにも声をかけられたときだけ立ってご説明申し上げるというのではなくてという意味で、二重でも構わないと思う。

(木元座長)

- ・どういう方が何人お見えになるかということはまだ不確定な要素があるので、ご参加が決まった段階で事務局で図面を描いてみる。席順、並び方、こんな工夫があるとか、案をまたファクスで送る。それをご確認いただいてご意見をいただきたい。
- ・客席からご発言いただく場合に、なるべくマイクを前の方に置いて、そこまで出てきていただくような形をとらせていただきたい。前回はそれでまあまあよかったと思う。

(碧海委員)

- ・11月の東京のときみたいに一番前ではないということか。

(木元座長)

- ・中間より少し前ぐらいをイメージしている。マイクの位置も後で確認したい。

(中村委員)

- ・座長報告だが、今回のテーマのときに、こういう時系列で、原子力関係にこんなことがあった、○印が敦賀関連であるという報告で良いのかという気がしている。テーマは地域共生であり、原子力がもたらすプラスとマイナスである。吉岡委員ははっきりお金と言われたが、それによって何が変わったかということ、市民の声として聞きたい。したがって整理すべきこととしては、インフラ整備がどのくらい行われたかとか等があって、何年何月何号機臨界、ということよりも座長報告で触れておくべきところだと思う。
- ・また、説明者というか、オブザーバー的に出席していただく方の中に、地元行政がないのはおかしいかなと思う。プラスとマイナスの話だと、質問はそこに行くのではないかなと思う。プラスの要素があるはずだが、実際には自治体としては、そのプラスが生かされ切っていないという声も出ないとは限らない。あるいは、福祉とか教育のこういう面では充実したという評価もあるかもしれない。となると、自治体関係の方の出席はお願いした方が良いのではないか。

(木元座長)

- ・本日は資料 11-1 号として、たたき台としての座長報告を出させていただいたが、これは時系列的に入っている。仮にこれでご報告するにしても、原子力発電所の導入について、なぜ敦賀だったんだろう、なぜ福井なんだろうという一番最初の導入のときの市民、県民の皆様の考え方もそこに反映されなければいけないと思う。それを頭に入れたらいいのかなと思っている。また、今の中村委員のお話のように、敦賀市あるい

は福井県というものが介在しないで語ることとはどうなのかなという思いは若干ある。そこで例えば、これは仮にだが、もし敦賀市長の河瀬氏がお出になることが可能であれば、これは皆様にお諮りしないといけないが、私の報告というのではなく、ここで2人出て、かけ合い漫才的に時系列的な報告をしながら、敦賀市がどう変わった、何が問題だということをそこで言えるかもしれないと思う。しかし、余りここで重くなってしまうと、次の第1部でパネリストの展開がしにくくなるだろうと思うので、そこは難しいかもしれないが、今おっしゃったように、敦賀はどう変わったかという話是可以する。歴史的に見た良い悪いは別にして、こうなった、ああなったと。人口は動態調査がある。これはこうなったと。いわゆるGDPではないけれども、自分たちの所得がどうなったという話が出るのか、産業はこうなったと出るのか、あるいは人が来るようになったと出るのか、あるいはもう一つ、魚が売れなくなったのか、売れるようになったのか、バスは通過するようになってしまったのか、とまってくれなくなったのか、いろいろな問題があるだろうと思うので、そこをざくばらんに市長とのかけ合いの中でお話しすることができるかなという気はしないでもない。

(碧海委員)

- ・私も先ほどの中村委員のご意見に賛成だが、木元座長の最初の報告の中に、そういう資料がもう少しあった方が良いと思う。ただ、そこで例えば市長の話を聞くということになれば、必ずそこに評価が入ってくることになる。私は、評価はなるべく入れない方が良いという気がする。そのためには、なるべく公表されていて市民の誰にでも見せられている、つまり余り評価を伴わない客観的な事実の資料というもので、敦賀市がどのように変わってきたかという資料はあった方が良いと思う。

(木元座長)

- ・客観的資料というと、例えば人口はどのくらい増えたとか、道路がどれだけできたとかできないとか、そういう淡々とした話になるだろう。

(吉岡委員)

- ・昼の人口と夜の人口のデータの解釈の問題とか、そこまで含めて細かい異論というのがそこにはある。例えば敦賀だと、吉村清さんが非常にその辺は詳しくて、恐らくは市長とは違うデータの読み方をしているだろうし、その辺を市長だけを呼んだのでは、何か中立性が崩れるという気はする。

(木元座長)

- ・それは、行政としての責任としてこれまで実施してきたということから市長が出ることだと思う。

(吉岡委員)

- ・一言だけなら良いが、それを基調報告でやられるというのは出過ぎではないだろうかと思う。

(中村委員)

- ・市長と座長がテーブルトーク的に進めるというのだと、ちょっと趣旨が違ってくる感じがする。

(木元座長)

- ・それはしない方がよろしいと言うことか。

(中村委員)

- ・私が言っている行政というのは、市長を出せ、知事を出せという話ではなくて、ほかの説明者の方たちと同じように、だって発言の機会があるかどうか分からないわけだから、それについて聞くことがなければ、それは発言の機会はないわけだが、市なり県なりの担当部局の方がいる必要はあるのではないかと、このテーマなら、という感じである。

(木元座長)

- ・どういうお立場の方がよろしいか。

(中村委員)

- ・県の場合だと、部局としては県民生活部だったか、そういうところになるだろうと思うが。

(木元座長)

- ・その場合、現状を語ることは可能かもしれないけれども、歴史的にどうこうというのは今の担当の方では難しいだろう。

(中村委員)

- ・それは、市民からは質問はそんなに出るのかなという感じではないか。東京から行った我々は、そもそもどうだったのだったかということに関して聞きたいことはある。しかし、基本的には市民の皆さんの質問に答えるというのが説明者の役割である。それだと、歴史的な経緯をご存じかどうかということは余り重視しなくても良いのではないかという気はする。

(木元座長)

- ・座長報告についてはいかがか。つまり、福祉の面でどう変わったか、教育の面ではどう変わったか、道路行政はどう変わったかといったことは、この歴史的経緯の中では出て来ない。

(碧海委員)

- ・だから、私は割に客観的な資料をそのままただ出したらいいいのではないかと思う。

(木元座長)

- ・先ほどから伺っていると、例えば客観的な事実を淡々と述べると言われるが、具体的には何を指しておられるか。先ほど私は、人口があるだろうと言った。それから、所得の経緯がある。そういうことか。

(碧海委員)

- ・今、例えば全国版の本が1冊出ているが、ああいうものを見ると、例えば市のいろいろなことが分かる。もちろん人口も。

(森脇座長代理)

- ・私は、以前高レベル放射性廃棄物の処分問題について委員会が作られたときに、地域との共生、地域をどのように考えるかということについて、その理念を考えたり、地域住民との間で今回のような話し合いなど、いろいろな場をこしらえて、地域との共生をどうするかということをは話していきましようという議論をしてきた。それは、その委員会に参加された松田委員もよくご存じだが、原子力と地域社会という場合に、原子力と敦賀というだけでなく、地域社会と原子力がどのような形で共生するのか、いろいろな考え方がある。そして、先ほど吉岡委員は金と言われたが、実際にその考え方は、金だけの問題になっているのかどうか、実際どう運用されてきたのか。地

元の人はどうそれを受けとめているのか。自分たちの意見は聞かれていないのではないかと考えているのか。つまり、市の当局や県はプラスになったかもしれないが、自分たちのところには何も来ないではないかと受けとめておられるかどうか。この点については第2部で皆さんが言っていただければいいわけだから、私の考えとしては、座長報告は、余り細かいところに入り込まずに、大体どういう考え方で議論をするのか。例えば敦賀を例にとるとこういうことがあった。それを皆さんはどう受けとめるかということで良いのではないか。先ほどの人口とか産業というのは、敦賀のような町でも多分そうだと思うが、ほかのファクターがいろいろあるから、人口が減ったから、ではこれは原子力のせい、人口が増えたから、原子力のせいということ、言えない面もある。私はその意味では碧海委員が言われたように、人口とか何とか、そういう地元の経済とか地元の社会に関するインディケーターとしての統計を出すのは良いが、原子力のおかげでこれだけ増えた、これだけ減っただろうという評価を加えたようにやると、先ほどの吉岡委員のご意見のように、それは別の話だということにもなる。しかもそんなに延々と座長報告をするわけではないから、座長として一般的に原子力と地域社会というのをどのように今までとらえてきたか、それは具体的な数字ではなく、実際に敦賀でどういう形をとっているのかを述べれば良いと思う。第2部では、皆さんの方から、それをどう受けとめられたのか、地域社会と一緒にやろうというのならもっとこういうことをやったらどうかとか、そういうご提言があればということで、データは出した方がいいけれども、余りデータの解説をすることはないし、市の当局の人とか県の人があるデータについて、これだけ増えました、これもみんな原子力のおかげだといったことでも言おうものなら、そうでない人から、そんなことはないということにもなろう。

(木元座長)

- ・それはよろしくないと思う。1回目、2回目に森嶋座長代理はご出席にならなかったのご存じなかったので恐縮だけれども、私が報告したのは今おっしゃったようなことだけしか言わなかった。評価は出さないで、データだけ出した。今、実際に福祉の面でどうだった、教育の面でどうだったとお声が出たので、それであえて、ではそれは私はしゃべれないから市長という立場がいいのかなと思ったので、もし最初の原点に戻って申し上げると、報告は15分以内と私の頭の中に入っている中で、その中でなぜ福井が原子力を導入しようとしたのか、そのきっかけを淡々と事実だけを述べて、あとは時系列的に、これはどうこうした、事故もあったと、本当に淡々とここに書いてある事実だけは述べようと思う。そうすると時間は早い。データのペーパーもつくことはないし、皆さんにお配りすることもない。だから、例えば人口はどのくらい増えたのか減ったのか、あるいは道路がどれだけ延びたのか延びなかったのか。それは原子力と関わっている、関わっていないに関わらず、敦賀がどう変わっているのかという事実は提示できるだろうという思いである。それでよければ……。

(碧海委員)

- ・先ほど中村委員が言われたのは、私、賛成だと言ったが、つまり、この今の報告案だと、本当に原子力絡みしかない。だから、同じ年数にその生活があったわけだから、それを資料としてあれば、私も杉並区が20年間にどう変わってきたかなんて、よほど考えてみなければ、そうそう簡単に分からない。だから、そういうものがないと、

今回のテーマではちょっと導入部として不足なのではないか。

(木元座長)

- ・ あえて言えば、人口の問題は割合重要だと思うのは、先ほど吉岡委員も少しおっしゃったけれども、昼間人口と夜間人口と違ったりする。転出なども随分ある。そういうものを見てみると、本当に地元の人がそこで働いているかどうかという実態は見えなくなるということもあるだろう。だから、何かヒントになる部分が少し覗ければ良いのかもしれない。ここに書いてあるのは、新聞紙上に出たこととかを網羅してあるだけなので、臨界がどうしたこうした、事故がどうしたこうしたというのももちろん重要だが、それをちょっと整理させていただこうと思っている。

(森島座長代理)

- ・ いずれにしても、今回は「原子力と地域社会」。地域との共生というのは、いろいろなところで、原子力は地域のために役立っているという議論と、いや、そんなことはないという議論といろいろあるわけだから、木元座長の報告それ自体は、第2部でいろいろな議論を触発するような論点、あるいは課題を出していくということが大事で、その意味では、何年に何があったということだけだと第2部につながらないのではないかというのが私の懸念である。

(木元座長)

- ・ 今まで2回やったけれども、座長報告が第2部につながる課題の明示という意識はない。ただ、青森でやる、あるいは東京電力のああいふ不祥事があった場合に何がどうだったのかという事実だけをお示しして、それを取り上げようが、取り上げまいが、こういう事実があるということをご提示して、それからパネリストの討論会の方に移行する。私の報告が問題提起にはならなくて良い。事実だけを踏まえて、その中から問題を見つけてピックアップしてお話しになればいいだろうという考えである。だから、本当に事実だけをお話するということを今までやってきたつもりなので、今回もそういう形の方が望ましいのではないかと。後でこういう事実があったようだけれども、あのとき実はこうだったということは、その後お聞きになった方が問題としておとらえになるならば、それはそれでいいだろうという感触である。今までの2回のやり方を踏まえながらさせていただこうとは思っているが、やり方は変えてもいいわけである。今までのやり方でよろしいか。

(井上委員)

- ・ 少し思うことがある。まず、原子力というのが立地しているところの地域にも当然暮らしがある。今おっしゃったインフラ整備のプロセスをデータとしてでも提供したら良いのではないかというのは、例えば消費地から福井へ見学に行ったりすると、すごい体育館があるとかいうのは、すごく目につくことである。その目についたことを言う。そうすると、地域の方は、自分たちの長年のその地域での苦勞も知らないでというような反発で逆にやってくる。それから、建ったところはよろしいが、その建った線引きの外側のところ、例えば小浜だと、その小浜の山一つ越えると名田庄とかがある。そうすると、ほんの距離で何キロぐらいのところでも、私たちは何の関係もない、何の恩恵も得ていないというのが、福井とか敦賀というエリアでくくって一括して言う、ものすごい温度差がそこに見えてくる。今回、「原子力と地域社会」というくくりを敦賀という地域限定にするのか、福井県というくくりでくくっていくのか、そ

これをどうするのかはまだ私も分からないが、敦賀と一言で言ったときのプラスとマイナスと、周辺部の、例えば小浜から来る人もいるだろう、名田庄から来る人もいるだろう、そういう人たちの部分のプラスとマイナス、これは逆転してしまうかもしれない。今回は、こういうテーマでなさるのもきっと初めてだと思うので、ストレートにそれが出てくるような場、2時間は。したがって、あえてこれはこういうことだった、ああいうことだった、これはこういう歴史があるということは、言えばそれはデータとしてあるわけで、その2時間から出てくることというのは、その生の声を聞くという場で良いのではないかと思う。

- ・ 場所が敦賀だから行政の方に何か一言というのは、結果としてフロアから出れば良いが、あえてプランの全体の2時間のプロセスの中に入れなくて、できるだけ中立でいていただいて、逆に聞いていただきたいという、その2時間のものをどういうものが出てくるのかというのを聞いていただく方がいい良いのではないかと思う。

(井上委員)

- ・ 私どものさっき言ったいろいろというのは、座っていただく方の中に地方自治体の行政の方はお入りにならなくて良い思う。

(中村委員)

- ・ 何か一言聞くために呼ぶわけではない。我々と同じように聞いてほしい。関電の方もエネ庁の方も内閣官房ももちろんみんな同じ立場だが、それと同じような立場で我々こうやって市民の声を聞きますから一緒に聞きませんかというのも行政への呼びかけで、やっぱり質問が出たときにお話を聞くこともあり得ますからと言って呼ばないと来ないかもしれない。

(井上委員)

- ・ 福井は嶺南と嶺北の温度差があるとよく言う。でも、嶺南は嶺南で先ほどのような温度差がものすごくあって、その問いかけのレベルによって何が出てくるかわからないということがあるので、そういう意味において、おっしゃるようないつでも答えが何か出てくるようにできれば良いと思う。

(木元座長)

- ・ 問題を整理させていただくと、自治体の行政の方に我々側の席にお座りになっていただくか、客席にいていただいて、お呼びだけはするか。それをこちらで相談してみる。

(中村委員)

- ・ 碧海委員が先ほど言われた件だが、我々コアメンバーと当日のゲストパネリストとは同じポジションで当日お話をしたいが、説明者の方は違うと思うので、コアメンバーと同じ並び方をするのは、納得できない。
- ・ 後ろの方にいて、いるのかいないのか分からないというぐらいで十分だと思う。市民参加懇談会として関係省庁や関連事業者に依頼するとしたら、必要があれば声をかけるが、とにかく座っていただいて皆さんの声を聞きなさい、というのが基本的なスタンスではないかと思う。

(碧海委員)

- ・ 今回の場合は、テーマが今までにないテーマだから、そういう意味で相当整理しておく必要があると思う。井上委員からも福井県なのか敦賀市なのかというお話があったが、資料 11-1 号の座長報告の案を見ても、福井県だか敦賀市だか分からない。やはり

福井県と敦賀市とでは相当違うと思う。やり方含めて。

(木元座長)

- ・この黒丸印が敦賀市の出来事として書いておいて、これだけ採り上げることも可能だし、あるいは福井の中の敦賀という観点から、なぜ福井の中で敦賀だったのかとか、そういう話もあるかもしれない。そういうことも含めて、本日も検討いただければありがたい。

(碧海委員)

- ・今回ご説明申し上げる立場になるのは、誰か。11月に東京で開催したときの東京電力とか原子力安全・保安院の方に当たるような方というのは誰か。

(中村委員)

- ・どういうご質問が出てくるか分からないから、今、候補者がズラリといるわけだろう。

(木元座長)

- ・関連があるから、さっき言った内閣府、文部科学省、資源エネルギー庁、原子力安全・保安院、核燃料サイクル開発機構、関西電力、日本原電となっている。

(碧海委員)

- ・テーマから言うと、一体誰が説明するという立場になるのか。

(木元座長)

- ・どんな質問が出るか分からないから、先ほど申し上げたように、自分の責任で会社を背負って答えていただけるような立場の方が来てくださることが望ましいと思っている。質問が全く出ないかもしれない。全く出ないにしても、例えば敦賀市民はこういうふうにあなたたちのことを見ているし、こういうふうに共生しようと考えている、ということを聞いていただければありがたいと思う。中村委員が先ほど言われたように、聞いてくれればよいということもある。場合によってはご発言いただかないかもしれない。

(碧海委員)

- ・先ほどから伺っていて、そういう答え方ができると思うのは、安全の問題ぐらいである。そうでない生活の地域のプラス・マイナスというテーマで、誰が誰に対して答えるのか。

(木元座長)

- ・そのテーマに直接かかわるご質問ではないかもしれないし、例えば関西電力がお出になったら、「こういうふうに福井に発電所を持ってきてもうかったか」などという質問が出るかもしれないし、「福井でなくてもよかったんじゃないか」という質問が出るかもしれないし、それは分からない。

(中村委員)

- ・我々としてもある種のリスク回避というか、聞きっぱなしにならないためにという策だと思う。市民参加懇談会の基本的な考え方である広聴ということで、このテーマで敦賀とその周辺の方たちの声を聞くということだったら、説明者はいなくても構わない。今回のテーマの場合は、皆さんがどう受けとめているかを聞ければ良いので、これまでの開催のように事実経過あるいは現状を説明する必要がないという考え方も取れる。ただそこで、ああそうですか、そういうご意見で、そういう点に不満を持っていらっしゃるんですか、そうですか、で帰ってくるだけで終わっていいのかというこ

とである。そのときに、答えられるものなら答えられる人にいてもらおうという位置づけだと思う。したがって、特に11月に東京で開催したときの東京電力、あるいは青森で開催したときの日本原燃のような説明者が必要かどうかというのはよく分からない。その役目としては、誰もいていただかなくても構わないかもしれない。ただ我々が、はい聞きましたで帰ってくるのは疑問だという意味である。

(碧海委員)

- ・それだったら壇上には並ばずに、会場にいていただければ良いのではないか。

(中村委員)

- ・そういう視点もあると思う。先ほども言ったような位置づけになってくるとやはり、パネリストやコアメンバーと一緒にいるのがもう一つ納得できない。会場にいていただくということなら、1列目に座っていただくという方法もある。

(大熊統括官)

- ・意見ではなくてご参考まで、一言申し上げたい。説明者の方々に会場にいていただくことは、非常に良いことだと思うが、恐らくプラスとマイナスの議論をする際の評価ではなくて、会場から、「私はこういうことがプラスだと思います」、あるいは「マイナスだと思います」と指摘された事実が本当にそのとおりかどうかということ、パネリスト・コアメンバー以外の方で、行政も含めて客観的に、「それは事実としてはこういうものです」とか、「こういうことです」と言える人がいると確かに良いかもしれない。プラス・マイナスの評価を聞くのではなくて、「道路がこうなりました」、「人口がこうなりました」、「正確に言うとかこういうふうな人口になっています」というように、事実はこうなっておりますと説明ができて、そのプラス・マイナスの議論が発展できたら良いということと言えるだろう。

(中村委員)

- ・お願いするとしたら、そういう役割だと思う。

(木元座長)

- ・また、11月の東京での開催のときの経験から言うと、いろいろ会場からご意見が出たが、東京電力の榊本氏がどうしてもこれだけお伝えしたいということがあった。私に言わせてくださいと手が挙がった。そういうことが私は重要だと実は思う。だから、受け取り側の方の市民の感覚だけでもものを言うのではなく、供給サイドの側の人間が私はそういう思いでやっていたのではないとか、事実はこうだったんです、今までわかりませんでしたとおっしゃることでそこに交流が生まれて、本当の共生の土台が出来てくるような気もする。そして、きちんとお名前も明らかにしていただいた方がお互いの責任が取れるだろう。その座っていただく位置が今は問題である。

(碧海委員)

- ・座っていただく位置は司会が知っていれば良いことで、お名前とかどこに座っていらっしゃるかを承知していれば良く、確かに壇上にはいなくても良い。

(中村委員)

- ・特にこのテーマで前に並んでいると、いかにも説明会風になる。

(木元座長)

- ・少し工夫する。こういう方に来ていただいていますということははっきり明示した方が良いと思う。フロア側の方々も責任を持って質問もできるだろうし、また名前を明

らかにした以上、その方たちも責任を持って答えてくださるだろうと思うし、どういう展開になるか分からないけれども、お互いに責任を持って前向きに討議しようという姿勢には変わりはないわけだから、やらせていただきたいと思う。あとは座る位置だけである。そうすると、同列でなく二重でもなく...

(松田委員)

- ・ 1つだけよろしいか。人間の信頼関係というのは顔が見える状態が一番良い。そうすると誰が主役で誰が説明役、聞き役という役割分担はあったとしても、私がもし市民だったら顔が見たいと思う。この人は信用できるか信用できないか。

(木元座長)

- ・ つまり原子力安全・保安院でも関西電力でも。

(松田委員)

- ・ はい。となると、同列には当然私たちコアメンバーはパイプ役なので市民の声を聞いて、説明者の方たちがうまく上手にニュアンスを伝えるということであれば、彼らも真剣に聞かなきゃいけないし眠ってもいけないわけだから、パネリストの後ろ側にきちんと市民の声を伺うというところで謙虚に並んで見える方が良い。

(木元座長)

- ・ 二重の半月形になるということか。

(松田委員)

- ・ 違う。半月の後ろの方で、まっすぐに並ぶのが良いと思う。信用できるか信用できないかにおいて、やはり顔はとても大事だから、角度はつけずにきちんと謙虚に聞くということ。

(木元座長)

- ・ 客席側ではなくて、客席から見える方の側にいた方がいいということか。

(松田委員)

- ・ はい。信頼関係という意味でも、この人はこの仕事をしてるんだ、この人はこの仕事をしてるんだということが分かるということが良いと思う。それがフロア席の中に混じってしまうと、全く見えなくなってしまうという考え方もある。

(吉岡委員)

- ・ 半分賛成だが、この会はやはり原子力委員会で、行政に反映させるというのが趣旨だと思うので、コアメンバーが基本的な聞き役であり、後ろの行政の方はあくまでも脇役なので、それが両方重なって見えると、例え後ろであっても主役があいまいになるのではないかという側面が若干危惧される。だから、フロアでも良いような感じはある。

(木元座長)

- ・ では、フロアで、かつ、顔の見える場所を工夫するか。

(碧海委員)

- ・ テーマにもう一遍戻って欲しいという気がする。どう考えても、今回は何か説明役がいて、皆さんに説明するというテーマではないという気がする。

(木元座長)

- ・ 説明役として呼びするのではなくて、ご関係の方々、企業の方々、組織の方々という感じになる。

- ・ 松田委員が言われたように顔の見える場所ということで、うまく工夫できないかなと思う。もう1回、折衷案を考える。

(中村委員)

- ・ 顔が見えるということについては、ご発言をいただくときに顔が見えれば良いのではないかなと思う。

(木元座長)

- ・ 「こういう方にお見えいただいている」とご紹介だけしておくということか。

(中村委員)

- ・ そうである。第2部の司会の松田委員と井上委員が、こういう話のときに振る人はいらなということさえ理解していればよくて、もしその機会があったら、私は客席で良いと思うが、関係者席で座っててもらって、立ち上がって我々の横のマイクが1本あるはずだから、そこで会場に向かってお話ししてもらおうと良いと思う。

(木元座長)

- ・ 我々の横のマイクというのは、私が先に座長報告するマイク。

(中村委員)

- ・ そこへ来て客席に向いてお話をさせていただくという形で良いと思う。

(松田委員)

- ・ 「関係者席」という言葉が新しく出た。

(木元座長)

- ・ それで良いかもしれない。前回、前々回の実績があるから「説明者」という言葉になってしまったが、「関係者」席で良いだろう。
- ・ 2つあると言ったもう一つの方は、例えば同じ地域でも温度差があるという問題。それこそ重要である。どこの原子力発電所へ行っても、何キロ圏内は優遇されていて何キロ外はそうでないという問題があると聞いている。それはずっと続いているだろうと思うので、現場でご意見が出た方がいいと思っている。その穴を埋めるのはどういう方法があるだろうかといったご議論ができれば、行政に反映させる声としては届けられるような気がするので、私はそれが一番ポイントになり得ると思う。

(碧海委員)

- ・ 福井県という規模は大き過ぎないか。

(井上委員)

- ・ 福井県は、地理的、歴史的に、江戸時代からというか藩制時代から区割りが2つの国を1つの県にしてしまった。気風も違えば気候も違う、成り立ちも違うところが今は1つの福井県という形で、住んでいる人たちもある種の温度差に対してお互いが一種の被害者意識的な、「あちらはいいわね」とか「私たちは」といったところが、語っている背景にあるように思う。かなり懐疑的な人たちとか、もしくは無関心な人たちというのも結構たくさんいるが、逆に私たちはこれで誇りを持って生きている、暮らしているという人たちもいて、そのバランスが時と時代によって変わる。

(木元座長)

- ・ それは福井県だけの問題ではなくてどこでもあり得る問題なので、共通項として語られる部分もあるだろうと思う。特に、敦賀市とさせていただいているために、具体的な議論が出るかもしれない。そのときに、先ほど申し上げたように、ではどうしたら

いいのかというお話し合いができれば良いと思う。

(井上委員)

- ・ と思う。多分、交付金等々はもう法律で決まっている。いくら気持ちがあってもこれはできませんというところで話は止まってしまう。行政の方もそれ以上言われてもうちには体育館はできません、というような…。

(木元座長)

- ・ だからどうしたらいいかのご提言があればうれしい。

(井上委員)

- ・ それから先をどうするのかという感じはする。

(中村委員)

- ・ 当然そのようになるだろう。

(木元座長)

- ・ と思う。井上委員のご意見として言ってくださると良いだろうと思う。

(竹内原子力委員)

- ・ 私は親戚が福井にいて本籍も福井だが、特に嶺北の方ではほとんど関心のない時代が長く続いていると思う。青森開催のときには六ヶ所の問題が主だったが、結構集客量があるので、青森市で開催した方が良かった。今回は敦賀で開催して敦賀の話をする。と福井市の関心があまり出てこないのではないかと。たまたま福井新聞の橋詰氏が来られるので、福井はほとんど福井新聞を読んでいるので、おっしゃるような点を少し触れていただいたらどうか。そうしないと論点が浮かび上がって来ないのではないかと。思う。敦賀は非常にまとまりがいいと思うが、ただあまり小さくまとまってしまうと、逆に県の中も広がらないというような心配もある。

(木元座長)

- ・ それは第1部で出るか、第2部で広がってまた橋詰氏にお話いただくと良いだろう。
- ・ お呼びするのは、先ほど申し上げた組織の方々に声をかけることにする。

(2) 次々回の市民参加懇談会の開催について

○事務局より、資料市懇第11-2号について説明。

(木元座長)

- ・ 開催地を敦賀にするか首都圏にするかというのは前回、前々回のコアメンバー会議で討議されたことだと思う。東京電力の停電問題がどういう状況になるかというのは不透明だが、恐らく9月以降には結果が出ているので、それを踏まえて電気そのものを考えるに当たって、私たちと電力との関わり合いのようなものをテーマにするということになると首都圏ということになるが、また違ったテーマでやるとなればどうかとは思いますが、いかがか。

(中村委員)

- ・ 新潟は柏崎が一応ペンディングになっているが、やはり福島、新潟、それと首都圏についてはやはりこの夏次第だろう。開催時期との関係もあるが、一連の停電問題が夏過ぎてどういうことになるか。開催はそれからではないかと思う。

(木元座長)

- ・ 先に開催地を決めないで、その結果によるということか。

(中村委員)

- ・もう1つは開催時期の問題である。例えば夏休み時期とかそういう時期にやるとすると、首都圏とか福島、新潟の立地地域については経過状態なので、不適當だと思う。

(木元座長)

- ・この前もお話が出たように事後、要するに結果が出てからの方がよろしいということか。

(中村委員)

- ・そう思う。これは事後、改めて供給の問題でも良いし、「私たちにとって電気って何？」でも良いが、そういうテーマの設定の仕方ができると思う。

(木元座長)

- ・事後ということ踏まえて、その時期——9月とか10月——にやるという案、すなわち開催日を決めてからやるという方法もある。

(中村委員)

- ・そう思う。10月とか11月に設定するのならテーマもそういうテーマで、首都圏あるいは東京への供給地である立地県、福島でも良いと思う。6月開催の後、次は11月というのでは間があき過ぎるという感じもあるので、それより以前に、とにかく活動を活発化させるということでその間にということだったら、またやっぱり違うテーマで、新潟、福島でない立地地域、前回もお話したように地方の中堅都市、中規模の電力消費都市という考え方もできるとは思う。

(木元座長)

- ・先ほど申し上げたのはいわゆる東京電力の停電をテーマにした方がよろしいと、今日はご欠席だが高木委員からご提案があって、我々もそれに傾いた。そのことが私の頭の中にあり、それをどうするかということをし少し考えたい。
- ・事後とすると、8月ピークとして、9月は残暑が厳しかったら9月の頭も危ないから、結果が出るのは9月の終わりから10月の頭ということになる。

(小川委員)

- ・供給と消費を考えるということ。

(木元座長)

- ・結果が良くても悪くても、それで私たちは今後、どういう選択をすればいいんだろうかと考えたい。パーフェクトに乗り切ってしまったら、原子力は要らないという声が出て出る。それをどうするかということになるだろう。

(中村委員)

- ・それこそプラスとマイナスだけど、乗り切るための方策というのが片方でマイナスになっている。

(木元座長)

- ・CO₂がどれだけ出たかという話にもなるかもしれない。

(吉岡委員)

- ・テーマを何にするかだが、原子力発電をめぐる信頼関係の再構築はいかがか。信頼関係が失われたからこそ全部止まった。物理的には全部止める必要はなかった。それが今度の夏にどうなるかに応じて、うまく乗り切ったら宣伝がうそだったということでまた信頼関係が崩れるし、破たんしたらまた信頼関係が崩れる。いずれにしても崩れ

るから、このテーマならどちらに転ぼうと普遍的なのではないかと思う。

(木元座長)

- ・信頼関係をテーマにするとしても、時期としては9月の終わりごろになるか。それとももう少し手前で1回開催するか。

(松田委員)

- ・あまり原子力と関係のない町で情報収集のような形で開催するのはいかがか。せっかくこの懇談会も盛り上がってきているのに11月までほったらかしは好ましくないと思う。

(木元座長)

- ・9月の終わりか10月の頭でいかがか。

(小川委員)

- ・9月の終わりという微妙だと思う。というのは、1カ月前の8月下旬に募集が始まるわけだが、結果は9月の終わりに出るとすると、募集時にテーマの小見出しぐらいはアップトゥーデートな感じを盛り込みたいと思っても無理ということになる。

(木元座長)

- ・例えば吉岡案にいう「信頼関係の再構築」だったらどう転んでもテーマは変わらない。

(小川委員)

- ・信頼の再構築というフレーズは、ここ何年か同じであるような気がしている。JCO事故以来、ずっといつも再構築、再構築っていう感じで、私の仕事の感じだといつも再構築を目指してやってきたので、目新しくない感じもするので、「信頼関係を構築できないのか」でも良いと思う。

(吉岡委員)

- ・テーマを絞れば良いと思う。

(小川委員)

- ・供給と消費というようなことで絞るということか。

(吉岡委員)

- ・「需給をめぐる信頼関係」とか。

(木元座長)

- ・サブタイトルを工夫すればいかにでもなると思う。

(碧海委員)

- ・需給の問題をやるというのは賛成である。ただ、吉岡委員が言われた「信頼関係」については、「信頼関係なんてそもそもあったのか」ということ自体が特に女性たちの考えになかったと思う。大体信頼関係なんてなかったのではないか。

(木元座長)

- ・ではテーマは、今日決めてしまわないで、時期だけ大体決めていただければありがたい。

(松田委員)

- ・11月にするのか、全然やらないのか、途中で一遍やるのかということと、テーマ。

(木元座長)

- ・11月にはならないと思う。遅くとも10月の頭ぐらい。

(小川委員)

- ・ 10月の頭というのも、先ほど申し上げたように厳しいのではないかと思います。

(木元座長)

- ・ 東電が設定しているピークは過ぎている。9月に残暑があったにしてもある程度のめどはつく。その結果を考えてご案内を出す時期となると、1カ月前だから、9月の終わりだったら8月の終わりごろからスタンバイすることになる。テーマは仮題としておいても構わない。停電を契機に開催するというでいいだろうと思う。そういうことは柔軟に対応した方が良いと思う。

(中村委員)

- ・ 何かテーマというか募集のときのテーマというのはもう少しアイキャッチできるもので良いが、隠しテーマというか隠れテーマは吉岡委員の言われたことだろう。まさに信頼関係に自信が持てなくなったから発電所を止めたわけだから、それはおっしゃるとおりだと思う。どちらにしろ、この停電問題は隠れテーマにずっとなり続けるものだろう。

(木元座長)

- ・ 碧海委員がおっしゃるようにそもそも信頼関係などなかったのではないかという視点もありうる。

(中村委員)

- ・ 停電が回避されたからと言って、信頼関係がどうなるものかという話になる。それは碧海委員のような考え方もある。

(木元座長)

- ・ では、次々回は首都圏にするか。

(碧海委員)

- ・ 首都圏で需給というかエネルギーの基本のようなことをテーマにというのはもともと賛成だが、今回初めて敦賀で地域の暮らしとの関係、プラス・マイナスということをしてテーマにすることから、今回の敦賀の結果が一体どうなるのか、ご意見が出てくるのか、その辺によってこれから先もこのテーマで、例えば立地でやるということも考えられる。
- ・ 資料 11-2 号に消費地として広島県広島市が挙がっているが、広島県ならば例えば大元に立ち戻って日本の原子力平和利用というのをテーマにすることも考えられる。

(木元座長)

- ・ 最近の雑誌にも出ているが、若手国会議員の十数%が、核武装検討すべきと答えている。そういうような事態を踏まえて、原子力平和利用をテーマに、広島で開催することは意味があることだと思う。原子力委員会は平和利用の番人であると言っているし、平和利用に限ると言っているのに、なぜそういうことが出るのかという疑問もある。

(碧海委員)

- ・ どこかでやらなければいけないと思う。

(木元座長)

- ・ そう思う。原子力委員会の範疇を越えている越えていないという議論ではなく、日本国民として原子力に携わるならば、平和利用について言及していかないといけないだ

ろうという気はしている。私も投稿の形で新聞にも書いたが、原子力委員会は平和の番人であるということを強調する意味があるから、広島でも開催してみたいと思う。

(碧海委員)

- ・ たしかに北朝鮮問題もある。

(木元座長)

- ・ 広島の場合は碧海委員が言われたように大きいテーマというか非常にベーシックなテーマが常にある。でも、すぐには無理かもしれない。
- ・ 整理させていただくと、敦賀の次は、東京以外の首都圏でやるということで良いか。

(小川委員)

- ・ 私は埼玉が良いと思う。神奈川県民として言うと、神奈川県の場合は火力発電で自給自足できている。原子力発電の方が地球環境とかコストとかから考えて、火力は止めて原子力発電の電気を使うとよいと思われる県だと思う。初めから発電所がなくて原子力の電気を使っている山梨、埼玉と比べると、神奈川県民としては神奈川県は優先順位が下かと思う。

(中村委員)

- ・ 水力発電で東京に電気を送ったのは山梨県が最初だから、山梨をそう言うと怒られると思う。

(小川委員)

- ・ 失礼しました。

(中村委員)

- ・ 埼玉県が良いとは思う。

(木元座長)

- ・ 小川委員が言われたような考え方だと、分散型電源というか、自分のところは自分で賄うからという発想になりがちになる。そうすると供給地というのはどうあったらいいのかという議論があるだろう。しかもエネルギーの大消費国である。それが自分のところは自分でできるから構わないという発想で良いのかどうか。神奈川は、コンバインドサイクルなどで随分工夫していると思う。そういう技術はサポート電源としては必要だとは思いますが、横浜はそれで賄えるという発想にはならないだろうと思う。

(小川委員)

- ・ もちろんそうである。

(木元座長)

- ・ 供給と需要の関係というテーマになれば、そういうことも話し合えると思う。

(小川委員)

- ・ 横浜か埼玉かというとき玉の方がふさわしいのではないかと言いたかった。

(中村委員)

- ・ 早くても次々回が9月の末とか10月の初めということなら、開催地についてはもう1回ペンディングにしてはどうか。電力不足問題の事後にしても、また市民参加懇談会のあり方というこの間の議論に戻るが、我々が本当に聞くべきことのテーマの優先度からいって、そういうことなのかということとはもっと考えても良いのではないかと思う。埼玉で聞くよりももっと聞くにふさわしい場所、テーマがあるような気がする。次々回が8月開催だから今決めようということなら仕方がないが、もう少し余裕

があって、例えば10月の初めぐらいで良いのなら、次々回のテーマと開催地については、もう少し考えることにしてはどうか。

(木元座長)

- ・資料 11-2 号は一応のたたき台として書いたが、そのほかにテーマと場所とのご意見があったらぜひ次回にご提示いただければありがたいと思う。ただ、議論の主流としては首都圏という案が出たことは事実であるが。

(小川委員)

- ・中村委員の意見としては首都圏での開催についてはいかがなのか。

(中村委員)

- ・首都圏でもし開催するなら、今このテーマしかないだろうというところまでは納得した。ただ、「市民参加懇談会 in 首都圏」というのがほかのところで開催するよりも優先度が高いかどうかという本質的な問題が気になっている。

(小川委員)

- ・初めに戻るといふことか。需給とかいうテーマについても最初からまた考え直すという考えなら賛成である。

(中村委員)

- ・もう少し考えてもいい。理由の1つとしては、「in 敦賀」の出席もそうだし、本日の出席も前回の出席もそうだが、コアメンバーはもっといたはずなのに、しかも6月28日というのは皆さんのスケジュールを聞いて、確か出席率が一番高い日程を選んだはずである。それが実際には資料 11-1 号にあるだけの参加しかいただけないというのは、同じコアメンバーとしても忸怩たるものがある。テーマや開催地を決めていく過程についても、大体もうメンバーが固定してしまった。それで我々だけで話し合っただけで本当に市民参加懇談会コアメンバー会議かという問題がまだ残っているので、できればもう1回クッションを置かせていただいて、次々回については開催地とテーマについて他のご欠席の方からもしっかりご意見をいただいて、もう1回検討しても良いというのが現時点での考えである。

(木元座長)

- ・ありがとうございます。私も内心想うところは幾つかあり、申しわけない気持ちもある。今後もよろしく願いしたいし、ご欠席の方を責めるわけではないが、それなりのご事情がそれぞれおありになってご欠席になるのだらうと思う。前回申し上げたように、少しお声をかけて専門委員を増員することを考えているので、よろしく願いしたいと思う。
- ・次回のコアメンバー会議のときに次々回の市民参加懇談会については再度検討させていただく。
- ・6月3日の火曜日にコアメンバーから原子力委員会に報告を行った。碧海委員、小川委員、中村委員、吉岡委員にご出席をいただいた。市民参加懇談会が原子力委員会を占拠してしまったという感じがしたぐらい時間を取らせていただき、委員長初め皆さん方ご理解があって聞いていただいた。その後、委員長からも、なかなか良かった、活発な意見を報告していただいて大変ありがたかった、今後も続けていただきたいというメッセージがあったので、お伝えしておく。本当にありがとうございました。

(3) その他

(木元座長)

- ・ 話題を「 i n 敦賀 」に戻す。「 i n 敦賀 」の開催に合わせて、ご視察を検討している。「もんじゅ」はご覧になっていらっしゃる方がほとんどだと思うが、ご覧になっていないとか、もう一回見たいとかいうお声があったら、アレンジさせていただこうと思っているが、いかがか。

(松田委員)

- ・ 一度行ったことはあっても、素人なので何遍でも見たい。繰り返し見ることで自分の中にきちんと吸収したい。

(吉岡委員)

- ・ 私も興味があるが、質疑応答のような時間を多くとっていただければ、参加したい。

(松田委員)

- ・ 通常の見学コースと同様でなく、もう一步踏み込んで理解できたら良いと思う。

(木元座長)

- ・ 現場を見ていただいた後、なるべく質疑応答を重点的に置くようにアレンジをお願いしたい。
- ・ 「 i n 敦賀 」で私が座長報告させていただく分、ここは再度検討して、また作ったものを皆様にお送りしてご検討いただく形にするので、よろしくをお願いしたい。

(中村委員)

- ・ 座長報告がないというのも選択肢に入れて考えていただきたい。

(木元座長)

- ・ 今回はテーマを考えると必要ないのかもしれない。検討したい。

(小川委員)

- ・ 報告というよりも、こういう報告でなく、前振りという感じはどうか。

(碧海委員)

- ・ 配布資料はあっても良い。

(木元座長)

- ・ どういう資料が良いか。

(碧海委員)

- ・ 同じ資料であっても配布資料の 1 つとしてなら良いと思う。座長が報告するとそれなりの意味を持ってくるだろう。

(中村委員)

- ・ もう少し言ってしまうと、今回の場合は最初木元座長がお立ちになるのは必要だが、そこでは「市民参加懇談会とは」、「市民参加懇談会 i n 敦賀とは」ということを言われるだけで良いのではないかという感じはしている。

(木元座長)

- ・ その中に、敦賀はこうこういう歴史を持っていて、ここで語るに一番ふさわしいのではないか、ということで良いか。

(中村委員)

- ・ 良いと思う。年表を読み上げるのではなくて、これは皆様の方が当事者なのでご存じのことですが、ということで構わないので、それで我々は何をしに来たのかというこ

とだけを言った方が良いという気もする。

(吉岡委員)

- ・概ね賛成だが、過去、現在までの歴史をたどることも重要だが、未来がかなり不確実な状況であるため、それについての不安もかなりあると思うので、その未来についても我々の前の世代から後の世代も含めたことについてご意見を聞きたいということを一言言えないだろうか。

(木元座長)

- ・過去に何が起こったか、今何が起きているかだけでなく未来についても語るということについては、第2部の方でずっと展開していただければと思う。

(大熊統括官)

- ・参加される皆様がそれぞれにプラス・マイナスに関してそれぞれの立場、気持ちがあると思う。特定の考え方でなくいろいろな角度で思い思いにプラスはこうでマイナスはこうだと言ってくれて良いと思う。

(木元座長)

- ・それを自由にご発言し、腹藏なくおっしゃっていただきたいという、そのことだけで良いか。

(中村委員)

- ・それで良いと思う。

(木元座長)

- ・ではペーパーは時系列的にまとめるが、あとは簡単にいきたい。市長も特別にお呼びはしない。

(小川委員)

- ・資料といえば、何か会場に向けて説明者の方からパンフレットのような資料を出すのか。

(木元座長)

- ・私どもの方からは配布しない。もし、用意するとしても勝手に置いていただいて勝手にお持ちくださいということにしかないだろう。

(中村委員)

- ・基本的には、説明者の方々には先ほど話したようなポジションで出席してもらうのだから、これを上手なPRの場に利用するというのは、不謹慎ともいえる。そういう場ではないというのが基本スタンスだと思う。パンフレットとかCD-ROMとかを配布するのは明らかに、PR行為である。疑問に答えるのはそうではないが。
- ・両方のケースが現実にある。青森ではそれは自由にピックアップしていいという形で提供スペースは設けたということだったと思う。

(木元座長)

- ・青森ではNUMO(原子力発電環境整備機構)の資料を置かせていただき、ご自由にお持ちくださいという形にした。会場からその件でご質問が出た。こんなものがあるではないか、こんなものが置いてあるのは、やっぱり青森を最終処分地にすることだろう、というご質問だった。それに対し、よく読んでください、こういうわけで日本全国にお願いしてご自分のところで自分たちが処分地に向いているとお思いになるならば手を挙げてくださいということですよ、というご説明ができた。それでその方も

了解してくださって、大変よかったと思う。知識として踏まえていただくという意味で、そういうものは良いと思う。

○本日の議論を踏まえて、事務局にて「市民参加懇談会 in 敦賀」の会場配置案、視察日程案を作成し、後日、FAX等で各委員にお諮りすることとなった。

以 上